

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

足腰が痛む初夏の夜寝返りも思うにいかずラジオ聞きおり
丑の日が待てずに食す鰻重に酷暑続きの疲れ取れるか
旧友を訪ねてみれば道忘れナビ頼りてもなかなか着かず
雨明けて日照りの続きわが庭のきゆうりトマトはみるみる育つ
猛暑日に頭回らず気力なく身体動かさず一日暮れゆく

小川短歌会

ブルーベリーの手作りジャムよにこにこと友の自慢の初めての味
柿畑に写るちはは若かりき母はあねさんかぶりが似合う
せみしぐれ聞くこともなく猛暑日の夕べ軒端に打ち水をする
ふり返り亦またふり返り手をふりぬ見送りくれし老母ははに応えて
(8月号訂正) 肩組みて唄いしロシア民謡若き日よあの哀調に癒されていた

玉里短歌会

尾瀬沼の木道ひたすら歩き来て長蔵小屋ちようそうこやに着たまま眠る
五年ぶりに食はお通しのイカ大根ママの毒舌ぴりりと辛し
一人減り二人減りゆく公園にお茶飲み会の声途絶えたり
死を覚悟して出陣せし若人の願いをわれら思い生きるや
朝も夕も三十度超す日の続き土手の荒草伸び放題に



鶴	石	野	松	高	幡	石	中	幡	根	菱	菱
町	橋	口	田	田	谷	田	根	谷	本	沼	沼
文	吉	初	通	久	啓	は	良	啓	智	友	清
男	生	江	喜	子	子	る	子	子	恵	江	子
						江			子		

みづうみ俳句会

やすらぎの里の水面に秋の雲
秋刀魚見て値札確かめカゴの中
老いてなほまだこの秋の種を取る
秋茄子の煮びたし美味し二人膳
退屈を編みこんでゆく秋模様

みのり俳句会

自動ドア出でし一步の残暑かな
草も木も人までうだる猛暑かな
蟬時雨いつも通りの夕散歩
今まさに暑さの峠なりとせん
あさがほの朝の蕾またかぞへ

檸檬の会

三叉路を蜻蛉の誘ひ右へ行こ
帰省子に甘えて犬の忠実忠実し
蜘蛛の巣や雨滴光りて大宇宙
幼子や水玉もよりの夏を笑む
がま口の一円玉の光る秋

くるみ俳句会

幾つほど打つ寝返りや夜半の秋
睡蓮の池畔巡れば風柔し
廃園の跡地は風の花野かな
滝しぶき浴びて息つく登山道
咲き初めし萩に招かれ散策路

たまり俳句会

吾の病い彼方へ飛ばせ流れ星
秋の宿カんと木桶の響きけり
満天の星きらきらと吾さそう
消ゆるまで見送る尾灯星月夜
露晴れてうねり遙かに大花野

小美玉川柳会

直売所私は油売ってます
人生の行き先変える途中下車
人恋しひとり自由を満喫し
ニュースだよまらずは眉つば付けてみる
第7波陽陽介護厳しいぞ

梶	大	枝	原	下	松	野	鶴	ま	齊	信	小	大	安	松	木	石	塚	網	矢	佐	友	塚	立	白	長	長	榎	長	三
原	盛	川		重	田	口	町	め	藤	田	原	根	彦	崎	村	田	田	代	口	藤	水	田	原	根	島	島	本	島	村
	食	白	富	悟	通	初	文	す	富	菊	工	昭	淑	宣	小	敏	忠	奈	富	清	清	文	千	清	久	さ	喜	美	れ
平	堂	水	貴	史	喜	江	男	け	子	女	ミ	宣	子	子	夜	江	男	久	久	子	清	江	代	香	美	か	代	子	い